

横路福祉社会報

〒七三七一〇一一三
 呉市広横路四丁目一四六
 横路福祉社会
 編集発行人
 神垣伸司
 (0823)7118197



「横路保育所創立74周年」

社会福祉法人 横路福祉社会

理事長 神垣 伸司

令和5年5月8日、3年余にわたり続いてきた新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に変更され、今後は、インフルエンザと同等の扱いとなった。発症とわかった翌日から5日間、かつ自然に熱が下がって3日間は自宅療養となる。

保健所への届け出は必要なくなったが、保育所へは連絡をお願いしたい。体力のない子どもたちの集団生活の場、可能な限り周りの人への感染拡大を防ぐ必要から、私たちは、自覚し責任を持たなければと思う。保育現場では、子どもたちのマスク着用については自由とし、保育士は、外あそびは非着用、室内は自由としたが、子どもたちへの感染リスクから、なかなかマスクのない保育へ踏み出す判断がつかないでいる。依然として現場はコロナ感染症に振り回される。

昨年6月には、こども基本法の制定と併せて子ども家庭庁が設置され、縦割り行政を打破し、本年度からこども施策を統一的に実行することとなった。

さて、どうしたものか？少子高齢といわれ続けてきたにもかかわらず、画一的なこども施策（保育所の増・開設、保育士確保対策助成）を全国的に展開してきた。しかし、今般、地方での子どもの減少に伴い、法人と法人の連携（人的・金銭的）をはじめ、合併・吸収という視点を提示してきた。これまで現実を直視せず、人口減少を認めたくない自治体の葛藤のつげが、近年になって地域密着している保育所の存在を揺るがせてしまう。

横路保育所も、今年初めて入所者が定数を割った。少なくなってきた子どもを保育所やこども園、幼稚園で取り合う、まさにゼロパイ社会（1つのパイを複数で取り合うさま）の流れに飲み込まれつつある。

国において、こども手当を18歳まで延長・増額すること、保育士の配置基準の見直し、次元の異なるこども施策の充実につながるがごとく議論されている。目先の施策ではなく、将来の子どもをどう育てていくのか、そのためには何をすべきか、子育てしやすい社会の在り方、支え方そのものの基本にかえった論議を望みたい。

その一翼を担う私たち保育所も、子どもの人数や保育士の人数で一喜一憂することなく、ドンと構えた子育てを保護者と共に実践したいものだ。

令和4年度 事業報告書

1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	6	6	6	6	6	6	6	9	9	9	9	9	87
1・2才児	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	492
3才児	27	27	27	27	27	27	27	28	28	28	27	27	327
4才以上児	56	56	56	56	56	56	56	55	55	55	55	55	667
計	130	130	130	130	130	130	130	133	133	133	132	132	1,573
開所日数	25	23	26	25	26	24	25	24	24	23	22	26	293

※ コロナ感染症によりクラス休園3回

2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	37	70	91	81	65	83	104	89	67	60	72	75	893
3才以上児	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
計	42	70	91	81	65	83	104	89	67	60	72	75	899

3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
(標)利用者	107	117	129	121	101	153	147	153	177	117	184	165	1,671
(短)利用者	15	8	14	9	8	16	15	8	13	12	14	6	138

令和4年度 社会福祉法人 横路福祉社会

貸借対照表

単位:円

科目	金額	科目	金額
流動資産	46,734,340	流動負債	4,340,010
固定資産	158,424,673	固定負債	7,750,600
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	27,153,968
		その他の積立金	87,950,000
		次期繰越活動増減差額	68,638,810
計	205,159,013	計	205,159,013

収支決算書

科目	金額	科目	金額
人件費支出	106,167,179	保育所運営費収入	140,445,160
事業費支出	18,438,120	受取利息配当金収入	76,578
事務費支出	6,351,013	その他の収入	1,654,940
その他の支出	2,446,868	施設整備等補助金収入	1,372,000
固定資産取得支出	6,578,270	積立資産取崩収入	152,700
積立預金積立支出	660,000		
当期資金収支差額	3,059,928		
計	143,701,378	計	143,701,378

令和5年度 第1回役員会・評議員会

去る5月25日役員会、6月15日評議員会を開催し、令和4年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。
 詳細（事業内容・財務諸表）はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

令和4年度事業報告書

1・事業の概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大が始まって3年が経過した。保育所では、全体の約4割の園児が感染し、毎日が感染予防対策に追われ、感染のピーク時には、保育内容の見直しと、併せて各種行事も試行錯誤しながらの保育となった。
 保育所の感染状況を保護者に公開し、園児の健康管理の徹底や家庭内での基本的な感染予防対策を呼び掛けた。
 子どもたちの成長に必要な各種行事は、安全性をより確保できる事業の取捨選択と実施方法に工夫を凝らし、運動会（幼児クラス）と発表会（全クラス）は、各クラス別・時間差で実施する等、例年とは異なる行事経験を通して自信や思い出作りに努めた。一方、閉鎖的な施設とならないよう、日常の保育状況の映像をICTを活用し保護者へ配信した。
 感染症により、外出回数が増加する中で、「はっけん散歩」を取り入れた。不思議と思うことを見つけ、自ら調べ発表するなど創意工夫を凝らしたことが自信につながった。この活動が本に向き合う時間を増やし、数や字に興味を持ちチャレンジすることができた。体力向上に必要な園庭での活動も、クラス別に時間差を設け、遊びを通じた体操や園庭内の散歩やランニングを行った。年長児による異年齢児交流を中止としたが、クラス内での役割当番を決め、給食や掃除等のお手伝いを行うことで自主性の醸成につながった。
 絵本の読み聞かせも、各クラス毎に変更し、回数の増加やその方法に工夫を凝らした。国際大学生のボランティアによる食育に関する絵本会は、事前に健康管理を行うことで年長児のみを対象として開催する等、創造性の芽生えと集中力の養成に努めた。一方、保護者に対しては、在宅時間の有効活用のため、保育士の推薦する絵本だよりの発行や本の貸し出しを推奨し、家庭内で本と触れ合う機会を増やした。なお、感染症対策として、ICTを活用した読み聞かせ映像の配信、また、絵本の消毒や貸し出し期間の工夫を行った。
- 情報公開については、ICTを活用した積極的な情報公開を行い公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章をはじめ、個人情報に留意しながら保育所の自己評価や苦情内容等も公開している。
- 健やかな発育・発達のための食生活支援として、管理栄養士による園独自のメニューを組み、出汁は全てイリコや昆布の自然素材調理を実施している。年々増加傾向にある食物アレルギー疾患児童に対しては、医師や保護者と管理栄養士・調理員・保育士が連携して子どもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。
 毎月の給食検討委員会で季節感のあるメニューの検討導入に取り組んだ。また、育ちの中での「食」への取り組み状況を保護者に伝え、保育所と家庭が一体となった子育てに力を入れてきた。



「憧れだった保育士は素敵な職業」

保育士 石橋 美空

『鳥さん骨が折れとるんかねえ』

園外散歩中に川で鳥が羽を広げて立っている姿を見て子どもたちが呟いた言葉です。大人はきつと「鳥が羽を乾かしている」と認識するか、あるいは意識しなければ鳥が羽を広げていることにも気づかないただの風景ですが、そんな風景の中に生まれる、子どもたちの発見や呟きにはいつも驚かされ、『なんか変なの』といった素直な感想やクスツと笑える呟きにも癒される日々幸せを感じている私です。

そんな私は、幼少期は幼稚園へ通い、大好きな年長の担任の先生に憧れ、気づいた時には保育士になりたいと思うようになっていました。迷うこともなく保育選択のある高校、短大の保育科へと進学し、短大卒業後、ご縁があつて横路保育所に勤めさせて頂くことになりました。夢が叶った嬉しさだけでは仕事が出来るわけもなく、出来ないことの多さに落ち込み、理想の先生とは程遠く、その日を超えることに必死な余裕のない日々でした。そんな日々の中でも、子どもたちの可愛い笑顔に癒され、たくましい成長にパワーをもらい、今年で4年目になりました。まだまだ未熟な私にも後輩ができて、行事の進行やクラス運営等、任せてもらえることが増え、頑張りたいと張り切る反面、自分出来るのだろうか、失敗しないようにとあれこれ考えて不安になることも多いです。そんな時、声を掛けてくださり、サポートやアドバイスで後押しをしてくださる先輩方の支えや刺激をくれる同期、後輩たちがいる環境で働くことが出来ている事に感謝の毎日です。また、今年も昨年度からの持ち上がりクラスという事もあり、乳児期から幼児期へ、こんな事も出来るようになっていたんだと成長のスピードに驚くばかりです。中でも、『やってみて！』と何事にも失敗を恐れず挑戦し、出来なくても諦めずやり遂げようとする子どもたちの姿、出来た時に『できたよ！』と見せてくれる最高の笑顔は、私も頑張ろうと思える一番の原動力であり、子どもの成長を見守り、支え、一緒に喜ぶことの出来る保育士は、素敵な職業だと思える瞬間です。

日々何気なく感じていることを実際に言葉にする事で気持ちを新たにすることができ、大切なことだと、この文章を書きながら感じています。

これからも保育士という素敵な職業に誇りを持ち、子どもたちの諦めずに挑戦する姿を見習い、初心を忘れず、日々精進していきます。



1人1本ずつ苗をもって
いもうえ



4年ぶりの幼児参観日



ハンカチで口をおさえ
避難訓練

「手をつないで」

保育士 神代 夕起子

私が横路保育所で働きはじめた時、ひよこ組だった子どもたちが今年あお組になりました。毎日かわいい子どもたちに囲まれ、先生方に助けて頂きながら、充実した日々を送らせて頂いております。時が経つのは早く、小学生だった我が子も中3と中1になりました。二人とも思春期・反抗期真っ只中。保育所の子どもたちを見て、「あんなかわいい頃もあったな」と思うことも多々。登降園の時、保護者の方と手をつなぎ歩いてる姿を見ながら、最後に手をつないで歩いたのはいつだっただろう・・・と。毎日「あたり前」のように手をつなぎ歩いたり、抱きしめたり、スキンシップをとっていたのに、時が経つにつれ、いつの間にかそれも無くなり、子どもには子どもの世界が広がり、親と過ごす時間も減ってきました。成長の証でうれしい事ですが、今思い返すともっともっと抱きしめたり、触れ合ったりしておけば良かったと、戻ってこない時間に、正直さみしさを感じます。次に息子と手をつなぎ歩くことがあるとすれば、足腰が弱くなり、上手に歩けなくなった時か・・・やはり幼少期のあの「あたり前」だった時は特別で幸せな時間だったと思います。その特別な時間を過ごしている子どもたち、保護者の方に、保育士として何か出来る事があるといいな、と思います。

寂しい話ばかりになってしまいました。手をつなぎ歩くこと、堂々と抱きしめることは無くなっても、いつまでも可愛い我が子。私の子育てはまだ半ばです。嬉しい事、楽しい事、思い悩む事色々ですが、保育所の可愛い子どもたちにパワーをもらいながら、今の時も大切に日々を過ごしていきたいと思えます。そしてこの私の子育て経験も、今後の保育士生活に活かしていきたいです。

保育所
園庭



新しい
遊具



はらぺこ
あおむし
ベンチ



鉄棒
3連

